

仮想 な アプライアンスの Prime Infrastructure (PI) のための CLI ルート ユーザ パスワード回復のプロセス

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[手順](#)

概要

この資料は仮想 な アプライアンス (VM) にインストールされる Infastructure 主なアプリケーションのための CLI ルート (シエル) ユーザパスワードを回復 するためにステップを記述したものです。

前提条件

要件

Cisco は VMware vSphere クライアント、vSphere コンポーネント、データストアおよびオブジェクト機能に使用方法およびアクセスのナレッジがあることを推奨します。

注意： この資料のステップは完了のためにアプリケーションのシャットダウンを必要とします。従って Maintenance ウィンドウの間にこのアクティビティを行うために提案される。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づくものです。

- Prime Infrastructure 2.2.x,3.0.x、VM にインストールされる 3.1.x バージョン。
- このリストからの ISO イメージ コピーの 1:
CentOS-5.10-x86_64-bin-DVD-1of2.iso
CentOS-5.11-x86_64-bin-DVD-1of2.iso
CentOS-6.6-x86_64-bin-DVD1.iso

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

手順

ステップ 1. VMware vSphere クライアントを起動させ、ESXi ホストが vCenter サーバに接続して下さい。

呼び出します。上記のリストからの開いた仮想 な アプライアンス (OVUM) マシンのデータストアにダウンロードされた .iso イメージをアップロードするために次の手順に従って下さい:

1. vSphere サーバでは、> 要約 > データストアは在庫整理するためにナビゲート します。
2. オブジェクトでは記録し、データストアを選択し、ファイルをアップロードして下さい。
3. データストア ファイル ブラウザ アイコンにナビゲートをクリックして下さい。
4. もし必要なら、新しいフォルダー アイコンを『Create』 をクリックし、新しいフォルダーを作成して下さい。
5. 作成した選択して下さいまたは存在して、およびアップロードを File アイコンがクリックするフォルダを選択して下さいフォルダを。クライアント 統合 アクセスコントロール ダイアログボックスが現われる場合、プラグインがオペレーティング システムにアクセスし、ファイルアップロードを続行するように割り当てをクリックして下さい。
6. ローカル コンピュータで、ISO ファイルを見つけ、それをアップロードして下さい。
7. リストのアップロードされたファイルを見るためにデータストア ファイル ブラウザをリフレッシュして下さい。

ステップ 3 ISO イメージがデータストアにアップロードされた後、それにデフォルト ブートイメージをするために次の手順に従って下さい:

1. VMware vSphere クライアントを使用する、PI VM ホストを右クリックし、コンソールを『Open』 をクリックして下さい。
2. 管理者ユーザとの CLI へのログインおよび型は VM をシャットダウンするために停止します。
3. 設定 > ハードウェアを編集するためにナビゲート しそして CD/DVD ドライブ 1.を選択して下さい。
4. デバイスの種類の下で、データストア ISO ファイルを選択し、そしてデータストアにアップロードした ISO イメージ ファイルを選択するのに Browse ボタンを使用して下さい。
5. 装置状態の下で、電源で『Connect』 を選択して下さい。
6. タブを『Options』 をクリックし、ブート オプションを選択して下さい。カ BIOS セット

アップの下で、**時間 VM を起動します** BIOS セットアップスクリーンに、Force エントリ 『Next』 を選択して下さい。これは仮想マシンを再起動するとき仮想マシン BIOS からのブートを強制します。

7. [OK] をクリックします。

8. VMware vSphere クライアントでは、**展開された PI VM を右クリックし、動力を与えるために > 電源ナビゲート** して下さい。

9. BIOS Setup メニューの PI コンソールの電力が、上にデバイスおよび移動 DVD/CDROM のブート順序を制御するオプションを見つけた後。これは PI VM がアップロードされた ISO イメージから起動するようにします。

ステップ 4. PI CLI ルート/シェル パスワードを変えるためにこれらのステップを完了して下さい:

1. プロンプトの **Linux 復帰** をタイプし、**入力 キー** を押して下さい。

2. 言語/キーボードのためのオプションを 『DEFAULT』 を選択し、Network オプションを選択しません。

3. メッセージとしてこれを見ます:

復帰 環境は今 Linux インストールを見つけ、ディレクトリ /mnt/sysimage の下でマウントするように試みます。それから必要なシステムへの変更を行なうことができます。このステップを続行したいと思ったら 『Continue』 を選択して下さい。また「読み取り専用」選択によって読み取りと書き込みの代わりに読み取り専用ファイル システムをマウントすることを選択できます。どういうわけかこのプロセスが選択できればスキップすればおよび失敗したスキップされるこのステップおよびコマンドシェルに直接行きます。

4. この画面で 『Continue』 を選択して下さい。

5. 既存環境があれば、/mnt/sysimage 位置にマウントされ、コマンド プロンプトにガイドされます。

ステップ 5.コマンドの助けによって PI インストール位置にルートを変更して下さい: **# chroot /mnt/sysimag**。

ステップ 6.コマンドの助けによって **/storeddata/rootpatchpw** を移動して下さい: **#mv /storeddata/rootpatchpw /root/**。

ステップ 7 この場合出口およびヒット**入力 キー**を入力して下さい。

ステップ 8.**再度ブートする**を入力し、PI に (起動後) 入って下さい。

ステップ 9 仮想マシンが vSphere クライアントでリブートされたら、**CD (コンパクト・ ディスク) アイコン**をクリックし、**ISO イメージ**を 『Disconnect』 を選択して下さい。

ステップ 10 ブートの完了が、PI サービス稼働していた後。PI admin CLI へのログインは **root_enable** コマンドの使用の新しいルートパスワードを設定し。

注: PI バージョンが **root_enable** 代わりに 3.1.x リリース 使用 **shell** コマンド パスワードを設定するためなら。